

□前回の質問 「預言を軽んじてはいけません」(Iテサ 5:20)。預言の賜物は終了したと学びましたが、この箇所を見ると、預言の賜物は今でもあり得るのでしょうか？ クレイ聖書解説コレクションの中では、預言が今でもあり得るというニュアンスの説明があったような気がしているのですが・・・。

回答：聖霊の賜物としての「預言」が今もある、というような記事を、クレイ聖書解説コレクションの中に見つけることはできませんでした。ハーベスト聖書塾神学コース、および、クレイ聖書解説コレクションの「ローマ人への手紙」では、中川先生は明確に、預言の賜物は終了した、としています。参考までに、クレイ聖書解説コレクションの中で、預言に関連するそのほかの記述も合わせて、次のとおり、紹介します。

1. **聖書塾の神学コース**では、預言について、次のように学びました。なお、神学コースでの参照資料(出典)は、フルクテンバウム博士のメシアニック・バイブル・スタディ 71 番の「聖霊の賜物」です。

(1) ロマ 12:6～8・・・聖霊の賜物 19 種類のうち、この箇所には 7 つ。

7 つのうちの第一は、預言すること。

① 預言者とは、神から直接の啓示を受ける人をいう。

② 新約聖書時代の預言者の実例は、次のとおり。

- 使徒 11:27～28 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下って来た。その中の一人で**アガボ**という人が立って、世界中に飢饉が起これと御霊によって預言し、それがクラウディウス帝の時に起こった。
- 使徒 13:1 さて、アンティオキアには、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの**預言者**や教師がいた。
- 使徒 21:8～9 翌日そこを出発して、カイサリヤに着くと、あの七人の一人である伝道者ピリポの家に行き、そこに滞在した。この人には、**預言をする未婚の娘が四人**いた。
- 使徒 21:10～11 かなりの期間そこに滞在していると、**アガボ**という名の預言者がユダヤから下って来た。彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って言った。「聖霊がこう言われます。『この帯の持ち主を、ユダヤ人たちはエルサレムでこのように縛り、異邦人の手に渡すことになる。』」

③ 預言者が語ったことは、必ず成就しなければならない(参照 申命記 18:20～22)

**(2) 使徒と預言者の賜物は終了した。**

- ① エペソ 2 : 19～22・・・使徒と預言者は「土台」、キリストは「礎石（隅のかしら石）」、信者は建物を形成する石材
- ② エペソ 3 : 1～9・・・預言者の使命は、神からの啓示を受けてそれを記録すること。使徒は預言の賜物も持っている。新約時代の「預言者」と「使徒」によって、恵みの時代の啓示はすべて記録された。

**2. クレイ聖書解説コレクションの中には、次のような解説があります。****(1) ロマ 12 : 3～8**

御霊の賜物①は、「預言すること」です。

**預言者とは、神から直接の啓示を受ける人**のことです。(1) アンテオケ教会には、複数の預言者がいました。「さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。」(使 13 : 1)。(2) アガボもまた預言者でした(使 11 : 27～28、21 : 10～11)。(3) さらに、女預言者として、ピリポの娘たちがいました(使 21 : 8～9)。(4) **預言者が語ったことは、必ず成就しなければなりません。**

**預言者の賜物は、新約聖書の完結とともに終了しました。**エペソ 2 : 20 には、「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です」とあります。**使徒と預言者は、教会の土台です。土台は一度据えられたら、据え変えることはできないし、そうする必要もありません。**

**(2) I コリ 12 : 4～10・・・預言。これは、**将来の出来事を言い当てる力**です。この中には、旧約聖書の預言を理解し、それを解き明かす能力も含まれているのかもしれない。****(3) I コリ 14 : 1～19・・・10 節「預言」。これは、**聖霊に教えられて神のことばを語るもの**です。その内容は、「徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるため」(3 節) のものです。「預言」を未来のことを言い当てる賜物と考える人もいますが、文脈から見ると、強調点は教会を立て上げるために聖霊に教えられて語る建徳的な言葉という点にあります。**

## (4) I テサ 5 : 19~22 . . .

20 節、預言をないがしろにしてはいけません。「預言」とはなんですか。ある人は、それは聖書を解き明かす能力であると主張します。またある人は、それは聖書がまだ完成していなかった初代教会の時代に必要であった賜物であると言います。さまざまな解釈があること前提に、その意味について考えてみます。預言は、聖霊の賜物の一つです。しかし、テサロニケの教会ではその賜物に無関心な人が多かったようです。霊の賜物に無関心になることはよくないことです。

21 節、すべてのことを見分ける。預言の賜物を行使する人が現れた場合、それが本物かどうか見分ける必要があります。「すべてのこと」とありますから、霊の賜物だけでなく、文字どおり万事を判別することが大切です。

21 節、本当に良いものを堅く守る。見分けた結果、それが聖書の教えと合致するのなら、それを堅く守る必要があります。預言や霊の賜物は、ないがしろにするのも、無批判に受け入れるのも間違いです。パウロのバランス感覚から学びましょう。

## 3. 補足説明 . . . クレイ聖書解説コレクション I テサ 5 : 19~22 について

- (1) ここでの解説の主眼点は、預言の賜物が今もあるかどうかでは、ありません。「さまざまな解釈があることを前提に」とありますように、預言は今でもあると考える人たちにも配慮した解説になっています。
- (2) ここでの解説の主眼点は、「預言の賜物を行使する人が現れた場合、それが本物かどうか見分ける必要があります」です。
- (3) 何を見て本物かどうかを判断するか . . . 21 節にあるように「すべてのこと」です。その内容が聖書の教えと合致するのか、にとどまらず、預言者を自称する人の実際の生活がメシアの律法に従っていて、良い実を結んでいるか、にまで及ぶでしょう。
- (4) 預言を吟味するときに、必ず確認しなければならない重要なポイントがあります。それは、語られた内容が、そのとおりに成就したかどうか、です。預言者が語ったことは、必ず成就しなければなりません（申命記 18 : 20~22）。